

プラハ交響楽団

Prague Symphony Orchestra

2026年5月
エリザベート王妃国際コンクール第5位入賞

「チェロ」
北村 陽

ブラームス、エネスク、カザルスの
各国国際コンクールで優勝！
西宮生まれ、SKO出身！比類なき22歳

新世界

古都プラハより、新年に聴く

チエコの次代を担う指揮者
「指揮者」トマーシユ・ネトピル

ベートーヴェン：「エグmont」序曲

Ludwig van Beethoven: Overture to "Egmont" op.84

ドヴォルザーク：
チェロ協奏曲

Antonin Dvořák:
Cello Concerto in B Minor, op. 104

交響曲 第9番「新世界より」

Symphony No. 9, in E Minor, op. 95 "From the New World"

2027 1/9 (土) 2:00PM 開演 (1:15PM 開場)

A 13,000円 B 11,000円 C 9,000円 D 7,000円 E 5,000円 (全席指定/消費税込)

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 (10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売
7/12(日)

チケット
予約

●芸術文化センター 0798-68-0255 <https://www.gcenter-hyogo.jp>

●チケットぴあ <https://pia.jp/t/>

●ローソンチケット <https://l-tike.com>

●イープラス <https://eplus.jp>

芸術文化センター会員先行予約受付開始 7/10(金)

直接購入 芸術文化センター2階総合カウンター [7/14(火)より、残席がある場合のみ]

※車いす席はお電話でのみ販売しております。※未就学児童はご入場いただけません。※プレイガイドでのお取扱いについては、各プレイガイドにお問い合わせください。※やむを得ない事情により出演者、曲目が変更となる場合があります。予めご了承ください。

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

兵庫県立
芸術文化センター

関西から

文化力
POWER OF
CULTURE

飛翔する“ドヴォルザーク”！ 伝統の“新世界”！

ヨーロッパ屈指の音楽の都、チェコ・プラハから名門オーケストラ、プラハ交響楽団が3年ぶりに来日。今回も自国の作曲家ドヴォルザークの魅力をたっぷり堪能させてくれます！オーケストラを率いるのは、2025年に首席指揮者に就任したトマーシュ・ネトピル。チェコ出身で、近年欧州で存在感を増す指揮者です。

演奏会の始まりは、2027年に没後200年となるベートーヴェンの「エグモント」序曲。ベートーヴェン・イヤーの幕開けに、勇壮な管弦楽が響きます。

続くドヴォルザークのチェロ協奏曲は、スーパーキッズ・オーケストラから羽ばたいた北村陽が演奏！ブラームス国際、エネスク国際、カザルス国際賞と、権威あるコンクールで第1位を受賞。2025年3月にはPACオーケストラとの共演で華々しく凱旋。そして、2026年5月の難関エリザベト王妃国際コンクールでは第5位に入賞し、さらに飛躍する才能を見せています。

後半は年の初めに聴きたい「新世界より」。前回、輝かしいサウンドでホールを満たしたオーケストラが、再びチェコ伝統の音で新春を彩ります。2027年を寿ぐ至高のひとときを。



© Marco Borggreve

トマーシュ・ネトピル (指揮) Tomáš Netopil, conductor

2025/2026シーズンよりプラハ交響楽団の首席指揮者に就任。これまでに、2018年から2024年までチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者のほか、エッセン歌劇場の音楽総監督などを務めた。客演指揮者としても国際的に活躍しており、近年および今後の出演には、ジュネーヴ歌劇場《皇帝ティートの慈悲》、ベルリン国立歌劇場《蝶々夫人》、シカゴ・リリック・オペラ《サロメ》、東京・新国立劇場《魔笛》、プラハ国民劇場《ルサルカ》、ケルン市立歌劇場《ドン・ジョヴァンニ》などが含まれる。また、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、アントワープ交響楽団、フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団、モントリオール交響楽団、シドニー交響楽団などに客演。さらに、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団、フランス国立ロワール管弦楽団とは定期的な関係を続けている。古楽器分野への取り組みも広げており、ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスやコレギウム1704との定期的な共演に加え、新アンサンブル「Silentium」との公演や録音プロジェクトを予定。また、学生に卓越した芸術教育と国際的な音楽家との交流・共演の機会を提供するため、クロメルジーシュで国際サマー・ミュージック・アカデミーを創設。2021年夏には、ドヴォルザーク・プラハ音楽祭との協力により、学生で構成される「ドヴォルザーク・プラハ青少年フィルハーモニー」を設立した。出身地のチェコでヴァイオリンと指揮を学んだ後、ストックホルム王立音楽大学でヨルマ・パヌラ教授に師事。2002年にはフランクフルト・アルテ・オーパーで開催された第1回サー・ゲオルク・ショルティ指揮者コンクールで優勝している。

北村 陽 (チェロ) Yo Kitamura, cello

2004年生まれ。2026年5月 エリザベト王妃国際音楽コンクール 第5位入賞。2024年エネスク国際コンクール・チェロ部門で日本人初優勝、同年カザルス国際賞第1位、23年ブラームス国際コンクール第1位。英国の弦楽器専門誌『The Strad』にて「卓越した音楽的才能の持ち主」と評される。日本音楽コンクール第1位および増沢賞など5つの賞を受賞。22年ハチャトゥリャン国際コンクール第2位、17年若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールで満場一致の優勝。9歳でオーケストラと初共演、11歳でサントリーホールデビュー。世界的マエストロのマンフレート・ホーネック、セバスティアン・ヴァイグレ、ジョヴァンニ・アントニーニ、小林研一郎、井上道義、高関健、大友直人、藤岡幸夫、山田和樹など、国内外を代表する指揮者および楽団と多数共演。第52回江副記念リクルート財団奨学生。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースにて堤剛に師事(2026年3月修了)、ベルリン芸術大学でイェンス＝ペーター・マインツに師事。これまでに山崎伸子、室内楽を磯村和英に師事。25年より庄司紗矢香率いる室内楽グループ「新ダヴィッド同盟」の新メンバーとして加入。齋藤秀雄メモリアル基金賞、出光音楽賞、ジャン＝ニコラ・フィルメニッヒ賞、ホテルオークラ音楽賞、服部真二音楽賞受賞。使用楽器は上野製菓株式会社より1668年製カッシーニ、弓は住野泰士コレクションよりベルソフを貸与されている。

オフィシャルサイト：<https://www.yokitamura.com/ja>



プラハ交響楽団 Prague Symphony Orchestra

プラハ交響楽団(FOK)は1934年の秋、指揮者のルドルフ・ペカーレクによって創立された。FOKはチェコスロヴァキア放送の生放送に定期的に出演することで名を広め、経済的に存立できる団体に成長。主たる推進者として創立以来活躍したのはヴァーツラフ・スメターチェクであり、彼は、短期間のうちに同楽団を大規模な交響楽団とし、1942年には首席指揮者に就任、その後30年間にわたって同楽団を牽引し、高い演奏水準を誇る国際的な名声を得るオーケストラへと発展させた。1952年、プラハ市は同楽団に市を代表するオーケストラという地位を与え新しい名称は「首都プラハの交響楽団FOK」となった。1957年にはポーランド、イタリア、オーストリア、ドイツへの初の国外ツアーを行うことによって国際舞台に躍り出た。その後イルジー・ピエロフラーヴェク、ベトル・アルトリヒテル、セルジュ・ボド、イルジー・コウト、ピエタリ・インキネンなどが首席指揮者を務めた。2025/26シーズンからはトマーシュ・ネトピルが首席指揮者となっている。プラハ交響楽団はその歴史の中で、多くの世界的名指揮者を客演指揮者として迎えただけでなく、多彩なソリストたちとも共演している。毎シーズン、プラハで50以上のオーケストラコンサートを開催するほか、シーズン開幕前にはヴァレンシュタイン庭園で伝統的な無料野外コンサートを開催。国外ではヨーロッパ、米国、南米、プエルトリコ、台湾、トルコ、イスラエル、オマーン、中国などの国々にも訪れている。